



SCSI ターゲットの検出

この章の内容は、次のとおりです。

- [SCSI ターゲットの検出, 1 ページ](#)

SCSI ターゲットの検出

SCSI LUN 検出に関する情報

SCSI ターゲットにはディスク、テープ、およびその他のストレージデバイスが含まれます。これらのターゲットは、ネーム サーバに論理ユニット番号 (LUN) を登録しません。

ネーム サーバには、次の理由により、LUN 情報が必要となります。

- NMS (Network Management System; ネットワーク管理システム) がアクセスできるように、LUN ストレージデバイス情報を表示するため。
- デバイスのキャパシティ、シリアル番号、およびデバイス ID 情報を表示するため。
- ネーム サーバにイニシエータおよびターゲット機能を登録するため。

SCSI LUN 検出機能には、ローカル ドメインコントローラ ファイバチャネルアドレスが使用されます。この機能はローカル ドメインコントローラをソース FC ID として使用し、SCSI デバイス上で SCSI INQUIRY、REPORT LUNS、および READ CAPACITY コマンドを実行します。

SCSI LUN 検出機能は、CLI (コマンドラインインターフェイス) または SNMP (簡易ネットワーク管理プロトコル) を通して、オンデマンドで開始されます。近接スイッチが Cisco Nexus 5000 シリーズに属する場合、この情報は近接スイッチとも同期されます。

SCSI LUN 検出の開始について

SCSI LUN 検出はオンデマンドで実行されます。

ネーム サーバデータベース内の Nx ポートのうち、FC4 Type = SCSI_FCP として登録されたものだけが検出されます。

SCSI LUN 検出の開始

SCSI LUN 検出を開始する手順は、次のとおりです。

手順の概要

1. switch# **discover scsi-target** {**custom-list** | **local** | **remote** | **vsan vsan-id fcid fc-id**} **os** {**aix** | **hpux** | **linux** | **solaris** | **windows**} [**lun** | **target**]

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	switch# discover scsi-target { custom-list local remote vsan vsan-id fcid fc-id } os { aix hpux linux solaris windows } [lun target]	指定されたオペレーティング システム (OS) の SCSI ターゲットを検出します。

SCSI LUN 検出を開始する例

次に、すべてのオペレーティング システム (OS) のローカル SCSI ターゲットを検出する例を示します。

```
switch# discover scsi-target local os all
discovery started
```

次に、AIX OS に割り当てられたリモート SCSI ターゲットを検出する例を示します。

```
switch# discover scsi-target remote os aix
discovery started
```

次に、VSAN (仮想 SAN) 1 および FC ID 0x9c03d6 に対応する SCSI ターゲットを検出する例を示します。

```
switch# discover scsi-target vsan 1 fcid 0x9c03d6
discover scsi-target vsan 1 fcid 0x9c03d6
VSAN:      1 FCID: 0x9c03d6 PWWN: 00:00:00:00:00:00
  PRLI RSP: 0x01 SPARM: 0x0012
  SCSI TYPE: 0 NLUNS: 1
  Vendor: Company 4 Model: ST318203FC   Rev: 0004
  Other: 00:00:02:32:8b:00:50:0a
```

次に、Linux OS に割り当てられたカスタマイズ リストから SCSI ターゲットを検出する例を示します。

```
switch# discover scsi-target custom-list os linux
discovery started
```

カスタマイズ検出の開始について

カスタマイズ検出は、検出を開始するように選択的に設定された VSAN とドメインのペアリストによって行われます。この検出を開始するには、`custom-list` オプションを使用します。ドメイン ID は 0 ~ 255 の数値（10 進数）、または 0x0 ~ 0xFF の数値（16 進数）です。

カスタマイズ検出の開始

カスタマイズ検出を開始する手順は、次のとおりです。

手順の概要

1. `switch# discover custom-list add vsan vsan-id domain domain-id`
2. `switch# discover custom-list delete vsan vsan-id domain domain-id`

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<code>switch# discover custom-list add vsan vsan-id domain domain-id</code>	指定されたエントリをカスタム リストに追加します。
ステップ 2	<code>switch# discover custom-list delete vsan vsan-id domain domain-id</code>	指定されたドメイン ID をカスタム リストから削除します。

SCSI LUN 情報の表示

検出結果を表示するには、`show scsi-target` および `show fcns database` コマンドを使用します。

次に、検出されたターゲットを表示する例を示します。

```
switch# show scsi-target status
discovery completed
```



- (注) このコマンドを完了するには、数分間かかることがあります（特に、ファブリックが大規模である場合や、複数のデバイスの応答速度が遅い場合）。

次に、FCNS データベースを表示する例を示します。

```
switch# show fcns database
```

次に、SCSI ターゲット ディスクを表示する例を示します。

```
switch# show scsi-target disk
```

次に、すべてのオペレーティング システムの検出済み LUN を表示する例を示します。

```
switch# show scsi-target lun os all
```

次に、各オペレーティング システム（Windows、AIX、Solaris、Linux、または HPUX）に割り当てられたポート WWN を表示する例を示します。

```
switch# show scsi-target pwn
```